

祖父・牛島満と沖縄戦

牛島 貞満

0.はじめに

「私たちが暮らす地域が、戦場になることを想像したことがありますか？」

想像でなく、地球の裏側で現実になりました。テレビに映し出されたロシア軍のウクライナ共和国への侵略での悲惨な現実に私たちは驚かされた。いかに「軍事力・武力による平和維持」が危ういのかということを表している。

(資料作成日 2022年3月15日)



I.沖縄県平和公園内にある平和の礎の2人の名前

(1)屋宜 和子さん(沖縄県 当時0歳、4歳の兄がいた。
お母さんは安里 要江さん=当時24歳)

(2)牛島 満 (鹿児島県 当時57歳 沖縄守備隊
[第32軍]の司令官)

(3)なぜ沖縄が戦場になったか【米軍の立場】

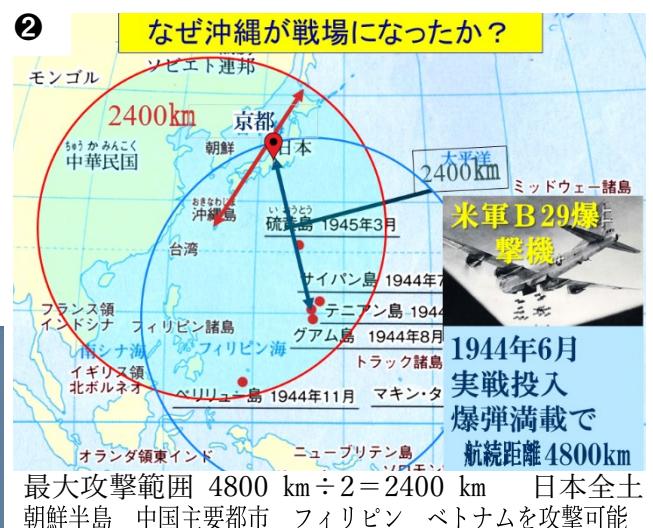
⇒沖縄に米軍の航空基地ができれば、日本全土を含む広範囲の空襲が可能になる。

(4)数字で見る沖縄戦 沖縄戦での日米軍の戦力

比較 p5-6 参照

(5)「鉄の暴風」とは?

花火と砲弾 何が違う?



2.住民から見た沖縄戦

(1)屋宜 和子さんのたどった運命

安里 要江さんの沖縄戦体験 (1999年インタビュー)

(1945年4月当時24歳、和子さん=6か月と宣秀さん=4歳の母親)『沖縄戦 ある母の記録』(1995年高文研刊)

質問①「安里さんは、どうして疎開をしないで、日本軍について行ったのですか?」



安里 要江さん

1944年沖縄戦が始まる前

中国の方から沖縄に日本軍が駐屯してきた。沖縄を守りに来たと思った。ああよかったです、助ける人が来たという感じで、「良かったねえ、沖縄守ってくれるんだね。(日本の)兵隊が来れば、ここに敵が来ないということ。アメリカの兵隊の捕虜になつたらダメだって、これが一番怖かったんです。アメリカの兵隊が上陸してきました、(女性は)暴行を受けるとか、子供たちを股裂きにするとか、男は戦車の下敷きにするとか、こういうことしか、私たちは教えられていません。この恐怖でもって「逃げよう」と思いました)。

質問②「実際に、沖縄戦が始まって日本軍は、住民をどうしましたか？」

沖縄戦が展開されて、3月23日、米軍の艦砲射撃が始まった時に一番頼りにしたのは兵隊だった。一番頼りにしていた(日本軍の)兵隊が、陣地で(私たち住民の避難を)指揮していないんですね。「どこに動きなさい」とか、こういうのはあんまりなかったです。

説明: 安里さんが逃げたルート。4月1日アメリカ軍読谷海岸に上陸。和子さんら家族・親戚20人で南へ逃げる。4月29日アメリカ軍南下。途中で艦砲の集中攻撃にあう。6月1日砲弾の飛び交う中、さらに逃げるが壕に入れない。次々と家族が亡くなる。6月6日、兄嫁被弾で死亡。8日実母死、長男宣秀被弾。9日義母死。10日義父死。道には遺体が転がっている。

質問③「砲弾で家族が次々と亡くなっていましたが、どうしましたか？」

どこか空いている防空壕がないか、空いている石穴がないか、自然のガマがないかということで、もう捜し求めてやっとの思いで「姉が、ああ向こうに壕らしきものが見えるよ、要江さん」と言った。)

行ったところがね、軍隊ですよ、日本の軍隊。怖いと思わなかつたから、気安く助けてもらえるという意味で、そこの前に立ちはだかった、私たち。中から 鉄兜を被って軍服をつけて軍靴をはいてパカパカと(日本軍の兵隊が)出て來た。

「お願いします。この子たちだけでもいいから、この防空壕の中に避難させてくださいませんか」と言い終わらないうちに「馬鹿野郎」ですよ、「馬鹿野郎、君たち(住民)がここに居るから(追い詰められて)戦争はこのようになっているんだ。出て行け、出て行け」と、私たちにずっと連発した。

出て行けならいいですよ。「そこに立っていたら、敵の電波探知機に探知されて、集中攻撃を喰らうよ」と。もうこの言葉がね、何かしら私たちには信じられないんです。あれほど私たちが頼りにしてきた日本の兵隊(友軍)なのに。なぜこんなことになってしまったのかな。涙も出ない、悔しさだけでいっぱいでした。

質問④「やっと入れた 轟^{とどろき} の壕でどんなことがありましたか？」

轟の壕の中は天井の高さがものすごく、人間が立っても上(天井)をつかむことができないぐらい(の高さで)、ガマが開いていた。とにかくその中に入ったら入り口にいたおじいさんに「そこには友軍がおりませんか」ということ、これを聞きました。おじいさんは「居るよ、居るよ。中に入ったらね、右側に横穴があるから、そこに入ったら日本軍、友軍がいるから、ここを通るときはそっと通りなさい。静かに通りなさい」と教えてくれた。

でも中でも友軍は悪いことをしましたよ。友軍は「みんなの前まで来て、着剣をして ガチャガチャと、壕の壁は岩盤ですから音を立てるようにして、「沖縄の皆さん子供を泣かすな、子どもを泣かすと殺してやるぞ」と言った。それが一番の恐ろしさでした。子ども泣かないでよ、泣かないでよ、兵隊、あれまでも兵隊さん付けです。兵隊さんに殺されるから。和子ちゃんも戦場の中を駆けまわるときは、背中に負ぶって、ひた走りに走ってここまで来ました。



参考:「沖縄戦・ある母の記録」(高文研)

やっぱり壕の中に入ったら、落ち着いて子供を抱っこする時間があるので、すべて抱きしめています。肌身離さずに、この子だけは守らなきゃいけないと。せっかくここまで生きのびてきたにもかかわらず、私の母乳はカラカラ。本当に一滴も出なかったんです。そして乳房を口に当てても冷たい感じがしたのは、私はびっくりでした。もうみるみるうちに、和子ちゃんはガマの中で餓死なんです。これが16日ぐらいだったと思います。一点の灯りもない中で、私の和子ちゃんは、私の手のひらの中で、息を引きとる。苦しかったですね。

でも、まさかアメリカの兵隊がここ(轟の壕)まで来て、私たちを……捕虜にして救出するとは夢にも思っていませんでした。

説明：轟の壕の周辺は地上の木々が砲弾ですべて吹き飛ばされた。すり鉢型をした壕の深いところの出入り口から、丸腰の米兵に手助けされながら、続々と子供、老人、女性などの住民が救助された。安里さんの家族は、和子ちゃん(8か月)死亡、夫=宣佑さん(27歳)収容所で8月12日死亡、宣秀ちゃん(4歳)収容所で10月1日死亡。一緒に逃げた20人の内、11人が沖縄戦で命を落とした。

証言①「米軍の捕虜になると、女は暴行を受け、子どもは股裂きをされ、男は戦車に下敷きにされる」と教えられていたが、間違っていた。

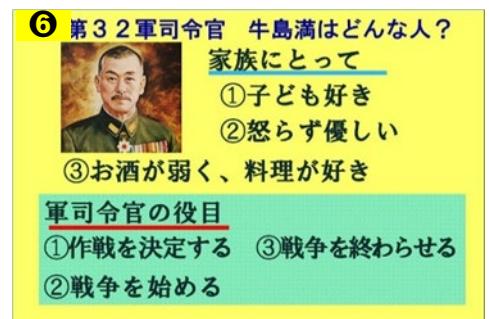
証言②沖縄戦が始まって、日本軍は住民を守らなかった。

3.牛島満はどんな人

(1)宮城 喜久子さん (1928-2014年 元ひめゆり学徒隊・当時16歳・津嘉山の経理部壕に配属され、牛島に壕の中で会い声をかけられた。)

(2)家族にとっては

(3)司令官の主な役目



4.日本軍(第32軍)の沖縄戦

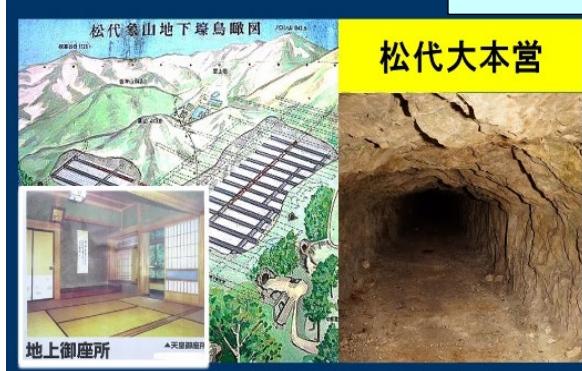
(1)大本営と沖縄守備隊(第32軍)の沖縄戦の方針

「持久戦=本土(本土)の防波堤=本土決戦準備の時間かせぎ」

①東京都皇居から長野県松代に大本営を移すために巨大な地下壕を掘り、天皇、皇族の住居、宮内省、政府、大本営・陸海軍部、NHKなどを移転するための工事

②鹿児島・東京湾沿岸要塞(千葉県館山等)の建設、各地の本土決戦に向けた基地作り

⑦本土決戦の準備



5.日本軍(沖縄守備隊・第32軍)の2つの命令と住民犠牲

(0) 矛盾する大本営の命令

- ・4月1日米軍は、沖縄島読谷海岸に上陸。その日に北(読谷)・中(嘉手納)飛行場を占拠
 - ・第32軍には、大本営からの作戦変更指示 持久戦⇒攻勢
 - ・**第32軍**：攻勢大失敗⇒兵力の2/3を失い⇒「持久戦」
大本営：攻勢の命令は変えず「攻勢」のまま

⑩ 5月末の日米両軍の戦力

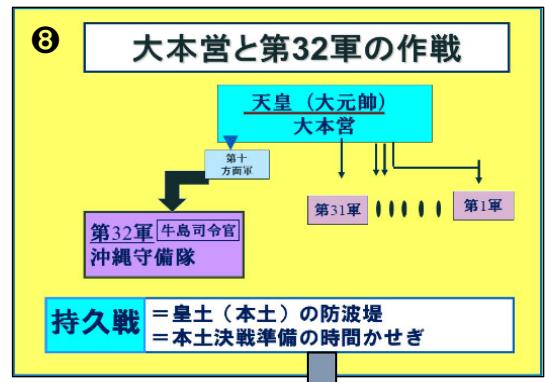


(1) 5月21日首里司令部壕での作戦会議

【情勢】4/8、5/4の日本軍(第32軍)攻勢により、兵力の2/3(約6万4000人死亡)を失った。米軍の死者は約5000人
沖縄戦が始まって約50日、米軍は、司令部のある首里城の近くまで迫った。

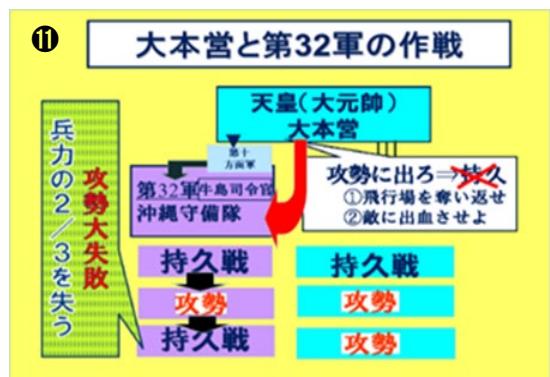
- ①首里でそのまま戦う(首里持久戦)
 - ②南部に下がって戦う(南部撤退)

⑫ どうして住民の犠牲者が多いのか



9 沖縄に日本軍が来た
本当の理由を知っていた人達

32軍を指揮した将校たちの写真



②南部に下がって戦う(南部撤退)

アメリカ軍

吉場 3・26着
4・1出発

嘉数高
浦添城跡
浦添市

中城村

4・2着
4・9出発

壱川

第32軍首里司令部

日本軍

4・11着
4・23救出
糞の堀
ひめゆり

國場
國場
与那原町

住民

6・11着
6・23救出
山城
城
ヒタチ

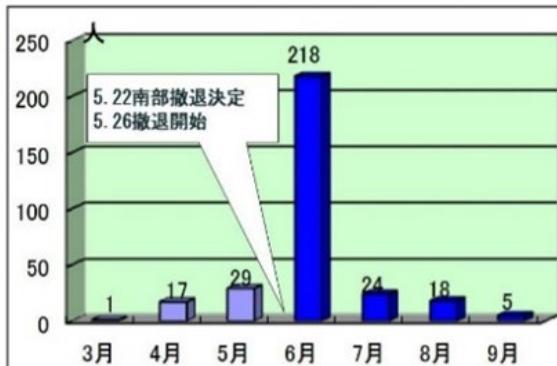
第32軍摩文仁司令部

参考「沖縄戦・ある島の記録」(高畠研)

(2)【南部撤退】の第1の命令(5月22日)で何が起きたか

1945年 長嶺小校区での月別死者数

⑬ 2004年長嶺小学校6年生調べ



(3)6月19日摩文仁司令部壕での作戦命令

「最後まで敢闘し、悠久の大義に生ぐべし」(第2の命令)で沖縄戦が終わったのはいつか?

- ①6月22日または23日(牛島満の命日、沖縄県慰霊の日)
- ②8月15日(大日本帝国がポツダム宣言を受け入れたことを天皇が国民にラジオ発表した日)
- ③8月15日より後

沖縄戦が軍隊として戦闘が終わったのは「月 日」

牛島満辞世の句「秋待たで 枯れ行く島の青草は 皇國の春に甦らなむ」

(4)もし、1945年8月に日本が連合国ポツダム宣言を受諾=敗戦を認めていなかつたら

⑭ 本土決戦の米軍上陸予定地 1945年7月



4. 沖縄県の小学6年生、祖父母からの戦争体験の聞き取り

5.まとめ 今、沖縄戦から何を学び、何を伝えるか?

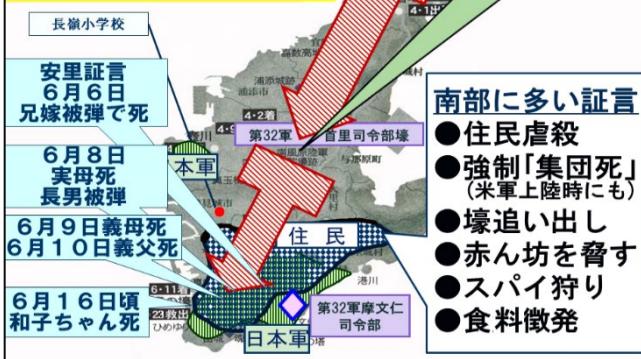
- ・意見の違いを戦争(武力)でなく、人間の知恵(対話)で解決すること。
- ・戦争を起こすのは人間、止めることができるのも私たち人間。

2 数字で見る沖縄戦

(1)沖縄戦で亡くなった人の数



⑯ 【南部撤退】による住民犠牲



- 住民虐殺
- 強制「集団死」(米軍上陸時にも)
- 壕追い出し
- 赤ん坊を脅す
- スパイ狩り
- 食料徴発

⑯ アメリカ軍 関東方面地上決戦構想図



PLATE NO. 162
Plan for Decisive Ground Battle on Kanto, July 1945

1945年7月

2 数字で見る沖縄戦

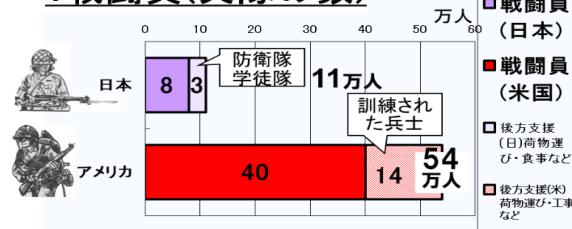
(1)沖縄戦で亡くなった人の数



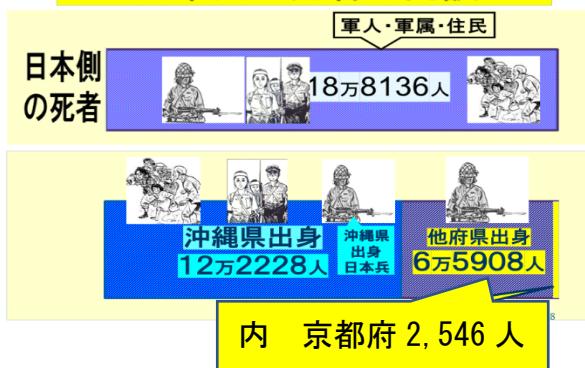
(2)日本軍とアメリカ軍の戦力を比べる

⑯-1 日本軍とアメリカ軍の戦力を比べる

1 戦闘員(兵隊の数)



17-2 日本人の死者の内訳

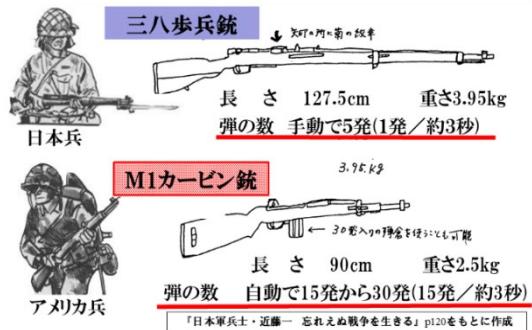


17-3 日本人死者の内訳



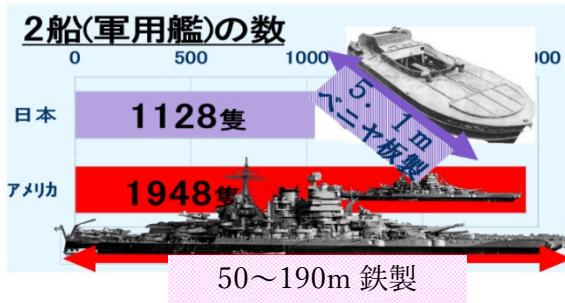
18-2

日本軍とアメリカ軍の戦力を比べる(2)



18-3

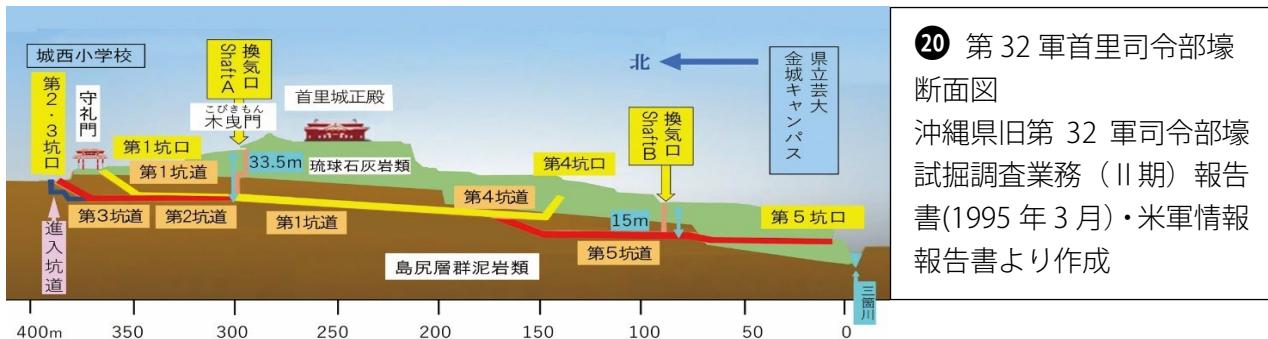
日本軍とアメリカ軍の戦力を比べる(3)



3 第32軍首里司令部壕の保存・公開に向けて



19 第32軍首里司令部壕平面図と航空写真 沖縄県旧第32軍司令部壕試掘調査業務(Ⅱ期)報告書(1995年3月)・米軍情報報告書より作成



20 第32軍首里司令部壕断面図

沖縄県旧第32軍司令部壕試掘調査業務(Ⅱ期)報告書(1995年3月)・米軍情報報告書より作成